

トピックス

多くの人々の思いが込もった聖火が 国立競技場の聖火台に点火



写真：AP/アフロ

▲2021年7月23日オリンピック開会式 大坂なおみ選手により聖火台に点火された

2021年3月に福島県を出発して国立競技場にたどり着いたオリンピック聖火。元プロ野球選手の王貞治さんと長嶋茂雄さん、松井秀喜さんなどによってつながれた後、テニスの大坂なおみ選手が最終聖火ランナーとして聖火台に火を灯した。

太陽がモチーフの聖火台は、球体が花のように開くことで生命力や希望を表現。また、脱炭素社会の実現に向けて、聖火の燃料には大会史上初めて、二酸化炭素を排出しない水素が使われた。



写真：長田洋平/アフロスポーツ

▲2021年8月24日パラリンピック開会式 3人1組でつながれてきた聖火を点火

パラリンピック発祥の地・イギリスのストーク・マンデビルと日本全国846カ所で採火され一つにまとめられパラリンピック聖火。パラリンピック開会式で、最終聖火ランナーの車いすテニスの上地結衣選手とボッチャの内田峻介選手、パラパワーリフティングの森崎可林選手の3人によって聖火台に点火された。

夢の大橋で 大会期間中に聖火を展示

オリンピックとパラリンピックの開会式で点火されたそれぞれの聖火は、その後、国立競技場から場所を移して展示された。東京の臨海部、江東区の「夢の大橋」に設置された聖火台で、各大会期間中、灯され続けた。



「夢の大橋」に設置された聖火台 2021年9月5日撮影▶

SAITAMA

TOKYO 2020 Olympic and Paralympic Games

Part 4

フォトドキュメント 県内の取り組み



気運醸成の取り組み

大会成功に向けて 県内各地で盛り上げ

大会の成功に向けて、県内各地でPRブースの出展や県内開催競技の体験会を実施した。また、大会までの節目にはカウントダウンイベントを開催。県ゆかりのアスリートやタレントが出演するステージやトークショーのほか、県内開催競技や聖火リレー、ホストタウン相手国の紹介など、多彩なコンテンツで大会への気運を醸成した。

オリンピック3年前イベント

2017年7月24日 (けやきひろば1Fプラザ)



▲埼玉県に届いたフラッグ

パラリンピック3年前イベント

2017年8月25日 (埼玉県総合リハビリテーションセンター)



▲大会のシンボルマークが描かれたフラッグを掲げ大会を盛り上げる

オリンピック1000日前イベント

2017年10月28日 (けやきひろば1Fプラザ)



▲カウントダウンボードを除幕式でお披露目

さいたまスポーツフェスティバル2018

2018年5月12日~13日 (さいたまスーパーアリーナ)



▲初心者でも気軽に楽しめるビームライフルで射撃競技をPR

オリンピック2年前イベント

2018年7月21日~22日 (イオンレイクタウン)



▲本県ゆかりのアスリート・タレントも参加

ビームライフル体験会

2018年7月28日 (陸上自衛隊広報センターりっくんランド)



▲射撃のトップアスリートによるレクチャー



▲地元地域のPRブース

和光ビームライフルチャレンジカップ

2018年8月9日 (和光市総合体育館)



▲県内在住の小学4~6年生がビームライフルに挑戦

埼玉応援団大集合!!

2018年8月22日 (ホテルメトロポリタン)



▲埼玉開催の成功へ向けた応援コール

パラリンピック2年前イベント

2018年8月25日 (ららぽーと富士見/富士見市立総合体育館)



▲射撃のトークショーや、パラリンピックの競技体験を開催



▲パラリンピアンによる車いすバスケットボール体験



▲東洋大学が製作したねぎライフル

東京2020オリンピック・パラリンピックPRラッピングバス出発式

2019年3月12日 (県庁 本庁舎南玄関前)



▲オリンピックの500日前から大会まで12台のバスが県内を走行

スポーツフェスティバル2019

2019年5月26日 (熊谷スポーツ文化公園)



▲埼玉T.Wingsによるブラインドサッカー体験

オリンピック1年前イベント

2019年7月20日～21日 (イオンレイクタウン)



▲パルクールなど、アーバンスポーツの体験コーナー



▲越谷アルファーズによる3×3デモンストレーション



▲会場には、トップアスリートに加え、森喜朗組織委員会会長(当時)も訪れた

オリンピック・パラリンピック1年前月間イベント

2019年7月27日～8月25日 (県内10カ所で開催)



▲「和文化とのめぐりあい」をテーマに開催(ピオニウォーク東松山)



▲コロンビアBMXチームのキャンプ地秩父市で子どもの体験会を開催(ユニクス秩父)

埼玉フェスタ

2019年8月31日～9月1日 (メットライフドーム)



▲埼玉西武ライオンズ戦の前に東京2020大会の県内開催をPR

埼玉フェア2019

2019年11月9日～10日 (イオンレイクタウン)



▲段ボールで製作した、特設のPRブース

県庁オープンデー

2019年11月14日 (埼玉県庁)



▲ミニバスケットボールの体験



▲スナッグゴルフの体験

仕事始めの式開式前イベント

2020年1月6日 (埼玉会館)



▲聖火ランナーやホストファミリー、都市ボランティア、スペシャルPRサポーターが参加

小中学校競技体験

8,725人がオリパラを体感

大会への関心を高めるためには、まずは大会に関わってもらおうこと。全国の小学生の投票で決定する大会史上初の試み「大会マスコット投票」では、県内から778校、12,159クラスの子供たちが参加した。また、県内開催競技をはじめとする各種の競技体験やオリンピックが講師役となり授業を行う「JOCオリンピック教室」などを開催し、オリンピック・パラリンピックの技術や努力をする姿を肌で感じることで、貴重な経験や新たな気づきを得てもらおう機会とした。

「2020賞」受賞校

2018年12月5日 (川越市立古谷小学校)



▲大会マスコット投票への参加が12,120校目となり、2020校ごとに与えられる「2020賞」を受賞した川越市立古谷小学校の子供たちと大会マスコットのミライトワ(左)とソメイティ(右)

バスケットボールクリニック

2018年9月12日 (行田市立南小学校)



▲県内開催競技「バスケットボール」の教室 講師:越谷アルファーズ(長谷川武さん、ルーク・エヴァンスさん、青野和人さん)

JOCオリンピック教室

2018年10月17日 (越谷市立西中学校)



▲オリンピックの価値を学ぶ授業 講師:高平慎士さん(陸上・短距離)

サッカー教室

2019年2月5日 (所沢市立西富小学校)



▲県内開催競技「サッカー」の実技 講師:丸山桂里奈さん(サッカー)

スナッグゴルフ教室

2019年11月21日 (川口市立東本郷小学校)



▲県内開催競技「ゴルフ」を体験 講師:日本ジュニアgolfer育成協議会

車いすバスケットボール教室

2019年11月29日 (蓮田市立黒浜中学校)



▲競技用の車いすで試合を体験 講師:永田裕幸さん(車いすバスケットボール)

JOCオリンピック教室

2019年12月3日 (東松山市立東中学校)



▲運動の時間 講師:塚原直貴さん(陸上・4×100mリレー)

ブラインドサッカー教室

2019年12月17日 (入間市立藤沢中学校)



▲ブラインドサッカーの実技 講師:寺西一さん(ブラインドサッカー)

やり投げ教室

2020年1月17日 (草加市立川柳小学校)



▲迫力あるやり投げの実技 講師:新井涼平さん(陸上・やり投げ)

マラソン教室

2020年2月21日 (加須市立水深小学校)



▲講師と一緒にマラソン 講師:猫ひろしさん(陸上・長距離)

都市ボランティアの研修

大会に向けた準備

「埼玉県の顔」として国内外から訪れる大勢の観戦客へのおもてなしを行う都市ボランティア。採用後、全国に先駆けて研修を開始。説明会・基本研修を皮切りに、おもてなしの心や観光、外国語、熱中症対策、普通救命講習、リーダーシップ研修など様々な研修を実施し、大会本番に向け準備を行ってきた。

2018年度研修



▲思いを一つに、都市ボランティアとしての準備をスタート。説明会・基本研修の参加者で記念写真(2019年1月29日、ウェスタ川越)



▲説明会・基本研修を楽しく受講



▲おもてなしのロールプレイング



▲大会に向けての意気込みを掲げて記念撮影

2019年度研修



▲緊急時の対応を学んだ普通救命講習



▲チームをまとめる手法を学んだリーダーシップ研修

2019年度研修



▲選択型研修「喜んでもらえる記念写真を撮るテクニック」



▲選択型研修「活動時の熱中症予防対策」



▲選択型研修「初心者向け英語でのコミュニケーション講座」



▲選択型研修「グローバルマナーとおもてなしの心」



▲「事前ボランティア体験」でお客様をご案内(浦和美園駅周辺)



▲「バックステージツアー」で埼玉スタジアム2002のピッチを見学



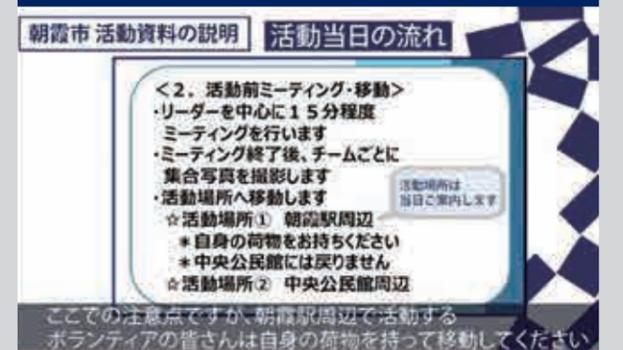
▲車いすに乗って不便なポイントを体験

2020年度研修



▲活動場所を動画で視聴し、大会本番の活動をイメージ

2021年度研修



▲活動の具体的な流れを動画で学んだ「大会直前研修」

都市ボランティアの現地活動

無観客開催でも埼玉らしいおもてなし

県内会場は全て無観客での開催が決定されたが、約3年に渡り大会に向けて研鑽を続けてきた都市ボランティアに引き続き大会に関わっていただくため、選手や大会関係者の歓迎・応援と会場周辺の清掃活動を行った。大会期間中4会場の周辺で実施した活動には、計86回延べ1,200人が参加した。都市ボランティアの歓迎に対し、選手や大会関係者も手を振り返したり、写真や動画を撮るなど大変好評であった。



▲さいたまスーパーアリーナで選手バスを歓迎



▲手作りのメッセージボードを掲げて歓迎



▲飛び入りのスロベニア人と一緒に選手を応援



▲大会関係者車両を歓迎



▲大野知事も一緒に歓迎



▲拾ったごみはきちんと分別



▲2024年パリ大会関係者も埼玉県のおもてなしを絶賛



▲手作りうちわでおもてなし



▲大雨にも負けず元気にお迎え



▲多言語でお迎え



▲選手と目があって歓迎もヒートアップ



▲応援メッセージの寄せ書き



▲マスクをしても笑顔は忘れずに

埼玉県版ホームステイ

埼玉の文化や魅力でおもてなし

東京2020大会に出場する海外選手の家族や大会関係者をゲストとしてお迎えする「埼玉県版ホームステイ」。県内671のホストファミリーは必要な研修を受け、2019年度から受け入れを開始。新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて大会期間中の実施は見送ったものの、78家庭が42カ国111人の海外メディアや駐日大使館関係者などをお迎えし、埼玉の文化や魅力に触れてもらった。

研修(2019年1~6月)



▲研修を受けたホストファミリー



▲ホームステイの基本的な心構えを学ぶ基礎研修



▲テーマ別研修(緊急時対応)



▲テーマ別研修(外国人とのコミュニケーション)

海外ゲストの県内競技会場視察



▲▼さいたまスーパーアリーナの視察と試合観戦



▲埼玉スタジアム2002の見学ツアーに参加

海外ゲストの県内観光地視察



▲インドネシア大使館職員とせんべい焼き体験



▲カナダ・オーストラリアの留学生とSLに乗車



▲和紙の紙すき体験をするモルディブ大使館職員



▲ネパール大使館職員と長瀬ラインくだりを満喫



▲コロンビア大使館職員に忍城を案内



▲EU駐日代表部職員らがそば打ちを体験



▲駐日ニカラグア大使と狭山茶だんごを堪能

ホームステイ受け入れの様子



▲ドイツのテレビ局関係者とのホームパーティ



▲駐日大使館職員と天ぷらやたこ焼きづくりに挑戦

オンライン交流@埼玉

安心・安全な交流で日本文化と埼玉の魅力を紹介

大会期間中とその前後には「埼玉県版ホームステイ」に代えて、コロナ禍でも安心・安全に海外ゲストと交流できる「オンライン交流@埼玉」を実施。25カ国延べ265人の海外ゲストが延べ283家庭のホストファミリーと交流した。大会前には母国にいる選手団の激励、大会期間中には選手村にいる選手団との交流なども実現。日本の文化や埼玉の魅力も紹介し、温かく多彩な国際交流が行われた。

交流した海外選手団



▲ベトナムオリンピックチーム



▲イラクパラリンピックチーム



▲レソトパラリンピックチーム



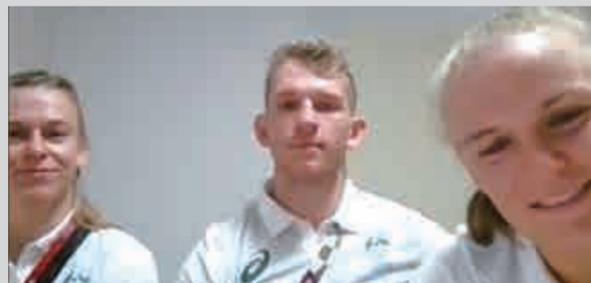
▲スリランカのバドミントン選手



▲コロンビア柔道コーチでメダリストのジュリアルベアルさんも参加



▲バーレーンオリンピック水泳チーム



▲選手村から参加した柔道オーストラリアチーム



▲選手村から参加したコンゴ共和国パラリンピックチーム



▲選手村から参加したモルディブパラリンピックチーム



▲フィリピンパラリンピックチーム

ホストファミリーが日本文化や埼玉の魅力を紹介



▲琴で「さくら」を演奏



▲浴衣姿のホストファミリーが折り紙の花火を披露



▲名物のうなぎを紹介



▲地元東松山市のスリーデーマーチを紹介



▲日本の駄菓子を紹介



▲オカリナの演奏に合わせて日本の童謡を熱唱



▲獅子舞を披露

オンラインによる応援合戦



▲オリンピックバレーボール(男子)日本対ベネズエラ戦を在日ベネズエラ人と共に観戦。熱い応援合戦を繰り広げた